

資料紹介「千石唐箕之図」

著者	近藤 雅樹
雑誌名	民具マンスリー
巻	43
号	11
ページ	18-19
発行年	2011-02-10
URL	http://hdl.handle.net/10502/4854

資料紹介

「千石唐箕之図」

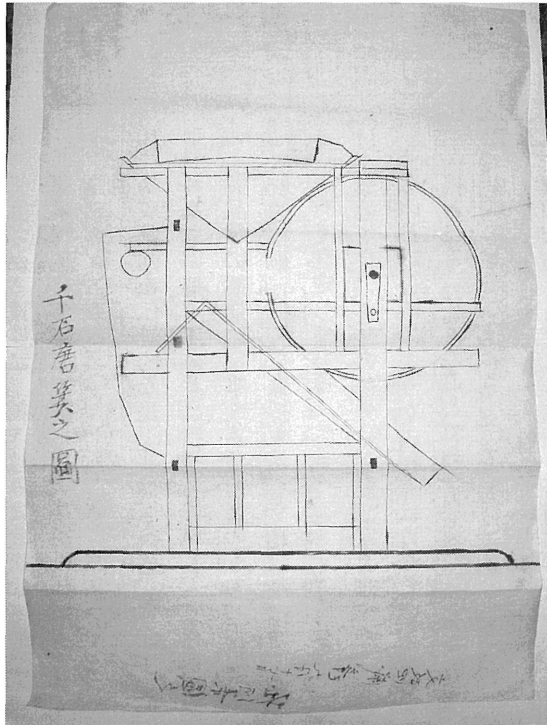
近藤 雅樹

国立民族学博物館

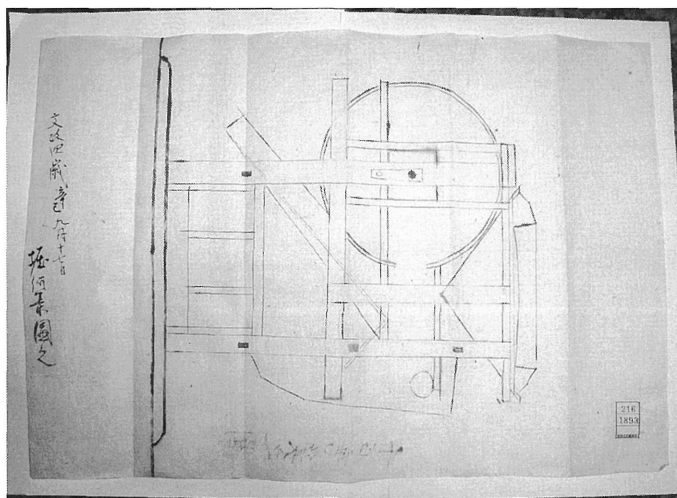
掲出した写真は、一枚の和紙の両面に描かれた内容を撮影したものである。「平成の大合併」による市域拡大以前に、姫路史市編集専門委員会の近世史料調査チームが、数十年をかけて旧家や寺社などが所蔵している史料調査を実施しているときに見出された。

表面の図は、吸気口の方形や、通し網の部分を示す「へ」の字形の構造物、漏斗の開口部などが朱墨で表現されている。寸法は、縦四六、五×横三二、二センチメートル。六折りにされていた。

裏面に「文政四歳」（一八二一年）とあるので、この当時、実際に「千石唐箕」と称する商品が製造販売されていたことを証明してくれる一紙である。



しかし、この図を残した「堀河某」については、どういう素性の者なのか、今のところ、まったく探索する手掛かりがない。ただ、刷版ではないので、農具大工や問屋・行商人などが販路拡張のために持ち込んだものでは、ないように思われる。はたして、完成予想図・見本図だったのだろうか、それとも、写生図か、何らかの文献から引き写しにされたものだったのだろうか。この図にとりまなう関連情報が何もないので、作図された目的はよくわ



の唐箕なのか判断できないが、全体の形状は、
者が紹介した各地の「とうし付き唐箕」のいずれとも変
わらない基本構造を呈している。

この図面の所蔵者は、姫路市林田の旧家で、江戸時代
には、代々大庄屋をつとめておられた。実見の上で撮影

からない。
しかし、
裏書きを
して保存
されてい
たことを
思ふなら、
注文を前
提に保管
していた
ものなの
だろう。
表面に
描かれた
図からは、
何枚羽根

林田大庄屋旧三木家住宅公開について

三木家は、英賀城主三木氏の出自と伝えられます。天正8年(1580)、羽柴(豊臣)秀吉による播磨侵攻により英賀城が落城した際、一族は各地に逃れました。当家は林田に来て帰農し、江戸時代を通じて林田藩の大庄屋をつとめました。

周囲は土塀等で囲まれ、南西には園池が広がっています。敷地内には主屋、長屋門、引き続き矩折れに長屋、土蔵(米蔵、肉蔵、新蔵)の6棟の他、屋敷神、裏門等が残っています。また長屋西端には藩主を迎え入れるための御成門が建てられています。

場所 千679-4203 姫路市林田町中樽74番地
交通 神姫バス姫路駅前発林田経由山崎行きで約40分
林田バス停下車、西へ約300mにある林田公民館を南へ300m

公開日 金曜日・土曜日・日曜日・月曜日及び祝日
※文化財保護のため、荒天時は、公開を休止する場合がありますので、ご留意ください。

時間 10:00~16:00(入場は15:30まで)
連絡先 林田大庄屋旧三木家住宅 TEL/FAX 079-261-2338

※公開日以外は、姫路市教育委員会 文化財課
TEL 079-221-2786

http://www.city.himeji.lg.jp/s110/2212786/_10507/_10508.htmlより

をご許可いただいたことに厚く感謝する。
現存する各地の「とうし付き唐箕」には、京屋製品を含めて、製作年代がこの時期にまで遡る資料はない。今後、新たな資料が検出されることを期待したい。そして、本図の所在をご教示いただいた故増田重信氏に感謝の意を表し、公表が遅くなったことをお詫びし、せめてもの手向けとさせていただきます。